



次の文章は、父が危篤との知らせを聞き、娘である作者が実家に駆けつけたところ、父娘ともに仕える後深草院もその場に訪れた場面を描いている。作者はこの時院の子を身ごもっていた。これを読んで、後の問い(二一九)に答えよ。(二十点)

とかくのこともなく、⁽⁷⁾やがて出づる道すがらも、「はや、果てぬやと聞かむ」と思ひゆくに、急ぎゆくと思へども、道の遙けさ、東路^{あづまぢ}などを分けむ心地するに、⁽⁸⁾行き着きて見れば、なほ長らへておはしけりと、いとうれしきに、「風待つ露も消えやらず、心苦しく思ふに、ただにもなしとさへ見置きて行かむ道の空なく」など、いと弱^よげに泣かるるほどに、更けゆく鐘の聲、ただ今聞こゆるほどに、「御幸^{ごかう}」といふ。いと思はずに、病人^{やまひびと}も思ひさわぎたり。

御車さし寄する音すれば、急ぎ出でたるに、北面^{ほくめん}の下^げ藤^{らふ}二人、殿上人^{どのにん}一人にて、いとやつして入らせたまひたり。二十七日の月、ただ今山の端分け出づる光も⁽⁹⁾すぎきに、われもかう織りたる薄色の御小^{ごせう}なほしにて、とりあへずおぼしめしたちたるさまも、いと面⁽¹⁰⁾だたし。

「今は狩の衣をひきかくるほどの力もはべらねば、⁽¹¹⁾見えたてまつるまでは思ひよりはべらず。かく入りおはしましたらうけたまはるなむ、今はこの世の思ひ出でなる」よしを、奏し申さるるほどなく、やがて引き開けて入らせたまふほどに、起き上がりむとするもかなはねば、「ただ、⁽¹²⁾さてあれ」とて、枕に御座を敷きて、つい居させたまふより、袖の外^{ほか}まで漏る御涙も所狭^せく、「御幼くより馴^なれ仕うまつりしに、今はと聞かせおはしましつるも悲しく、今一度とおぼしめしたちつる」など仰せあれば、「かかる御幸^{ごかう}のうれしさも置き所なきに、この者が心苦しなむ、思ひやる方なくはべる。母には二葉^{ふたは}にておくれにしに、我のみと思ひはぐくみはべりつるに、ただにさへはべらぬを見置きはべるなむ、あまたの愁^{うれ}へにまさりて、悲しさもあはれさも、言はむ方なくはべる」よし、泣く泣く奏せらるれば、「ほどなき袖を、我のみこそ。⁽¹³⁾真の道の障^{まじり}りなく」など、こまやかに仰せありて、「ちと休ませおはしますべし」とて、立たせたまひぬ。

『とはすがたり』

注1 われもかう……植物の名称。吾亦紅。

注2 二葉にて……幼い頃に

注3 真の道……仏の道。ここでは往生することを言う。

問一 傍線(ア)・(イ)・(ウ)の本文中の意味として最も適当なものを下記の1—4の中からそれぞれ一つ選び、その番号を記入せよ。

(ア)「やがて」 1 そのうち 2 ややあつて 3 すぐに 4 ようやく

(イ)「やつして」 1 目立たぬように 2 やつれた様子で 3 くつろいで 4 身支度を整えて

(ウ)「すぎき」 1 まばゆい 2 美しい 3 青白い 4 寂しげな

問二 波線a—cの「に」の文法的説明として最も適当なものを次の1—6の中からそれぞれ一つ選び、その番号を記入せよ。

1 格助詞 2 格助詞の一部 3 接続助詞

4 断定の助動詞 5 完了の助動詞 6 形容動詞の活用語尾

問三 傍線(カ)・(キ)・(ケ)の敬語は誰から誰への敬意をあらわしているか、最も適当なものを次の1—5の中からそれぞれ一つ

選び、その番号を記入せよ。

1 作者から父 2 作者から後深草院 3 作者から読者 4 父から後深草院 5 後深草院の自敬表現

問四 傍線(オ)「いと面だたし」の説明として最も適当なものを次の1—4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。

1 夜の訪問にもかかわらず風情のある服装でやって来る院が、作者にはたいへん誇らしく感じられた。

2 病人がいる家をむやみに騒がせないよう、少ない従者で静かに訪れた院の行動は、周囲の人々に称賛された。

3 何を差し置いてもまず父の見舞いに駆けつけてくれた院の様子が、父にとっては光栄なことだと思われた。

4 院がお忍びで来訪するより先に実家に駆けつけることができ、作者は娘としての面目が保たれた。

問五 作者の父が死を前にして何よりも心残りであったことは何か。最も適当なものを次の1―4の中から一つ選び、その番号を記入せよ。

- 1 自分以外には身寄りがないうえに妊娠中でもある娘を残し、世を去らねばならないこと。
- 2 長年の希望であった東国への旅が、病気のために最後まで果たせなかったこと。
- 3 娘の出産の日まで生きながらえ、孫の顔を見届けることができそうにないこと。
- 4 院がわざわざ訪問してくれたのに、狩衣をはおる余力も残っていないなかったこと。

問六 傍線(エ)の漢字を記入せよ。

問七 傍線(コ)の読み方をひらがな(現代かなづかい)で記入せよ。

問八 傍線(ク)「さてあれ」を現代語に訳して記入せよ。

問九 本文中のある言葉は「臨終」という意味の名詞としても用いられ、「の際」を後に補っても同じ意味となる。その言葉抜き出して記入せよ。